

11自治委員会成功で

教養部の勉学・厚生施設の改善を、11月祭の成功を、奨学金制度改善・学費値上げ・大軍拡臨調阻止、京都府の非核地帯宣言を、実現しよう、
教養部自治会の民主的強化・発展を。

一九八二・一〇・二六

教養部自治会常任委員会

軍国主義復活阻止 要求実現のために
教養部自治会の民主的強化・発展を

『学生生活をめぐる三つの危機』

より豊かな学生生活を願う私たちに対して、以下の三つの危機が進行しています。

第一には、F16三沢基地配備の計画に示されている様に、アメリカの限定核戦争に日本が巻き込まれる危険が増大し、学生が再び侵略の銃をとらされようとしています。

第二には、大軍拡のしめよせが学生生活に及ぼされていることです。学費値上げや奨学金制度の改善が言われ、勉学厚生条件さえ困難になっ、まきています。

第三には、改憲を焦点にした一連の反動攻勢（参院全国区制改悪や教科書問題等）と、臨調路線により、大学の自治や民主主義そのものが大きな危機に面しています。

『許さぬ大学当局の姿勢』

こうした反動即反国民的の政策と同時に、私たちの要求を阻害するものに、学生の自治、権利を後退させる当局の姿勢があります。一昨年の教育委員会に続き経済学部でも学部長選の改悪が行われようとしています。

教養部においては、教養部自治会を公認しないばかりか、自主的の活動を援助せず、学生の切実な要求である勉学厚生施設の改善すら怠っていると言わざるを得ません。

『教養部自治会の発展強化は急務』

こうした状況の下、教養部の貧困な施設の改善をはじめとした要求を実現していく団結の要として、また、反動攻勢を打ち破る全学的、全国的運動に合流していく要として教養部自治会の民主的発展強化は急務の課題です。

春からのC自の運動の到達

10/21統一行動に向けて10クラス近くで学習会討論が行われ、集会にも教養生約80名が参加し大きく成功しました。（全京大集会600名、全京都学生集会1,500名、京都集会800名）
これは、SSD IIに向けた映画上映や学習会署名運動の成果であり、今後の運動へとつながっていくものです。また、学内諸層、他団体との連帯した運動（例えば、京都の非核地帯化を進める運動）が、前進しているところに、反動攻勢を打ち破る展望があります。

学内の勉強、厚生条件の改善の運動も、前期のアンケートや署名の成果もあり、夏休みの図書館開館や自転車道場の整備など、実現されています。また、12年間の運動の成果として吉田厚生センターの予算化が実現しています。しかし、まだまだ貧困な施設であり、今までの運動の水準を大幅に引き上げていくことと、教養部自治会の公認化が必要と仰っています。

11.11自治委員会の果たすべき

4つの重要意義

(後期)「要求と方針」を確立し、要求実現の節にし、11月祭をはじめとするクラス活動を交流し、11.17大層関係七団体(全学連、大學生協連、同教組、大学部等)の全国統一行動に合流していくために、11月11日に自治委員会を開催します。この11.11自治委員会は、以下の大きく四つの意義があります。

第一に、学内の勉強、厚生条件の改善、クラス活動への物品支給の実現を求める教養生

の要求集約と、自主ゼミ活動や11月祭に向けたクラス活動の交流を行うことです。

第二には、大層のしめよせを学費値上げや奨学金制度改悪をはじめとした学生生活、国民生活へ押しつける臨調路線反対の運動の節とすることです。とりわけ、11位全国統一行動を京大教養部からいかにとり組んでいくか決定していくことです。

第三には、核兵器完全禁止を求める草の根運動をさらに広げ交流を行うことと、京都府の非核地帯宣言を実現する運動の集約を行い、12月府議会に向け要請していくことです。

第四には、以上の三つの意義を果たしていく為にも、教養部自治会の民主的強化を打ちとることと、全学自治会同窓会の民主的確立に向けた大きな一歩とすることです。大学の自治への攻撃が強まっています。この第四の意義は重要になります。

以上4つの意義を持つ11.11自治委員会をクラスからの運動で成功させましょう。

行動提起

- ① 「要求と方針」案の議論を行おう、アンケートにとりくもう。
- ② 核、安保、臨調等について学習を行おう、非核地帯化を求める運動を進めよう。
- ③ 決議を集中しよう、④署名を集めよう。
- ④ 全学連「世直し署名」を集めよう。
- ⑤ クラス活動への物品支給を求める決議など、クラス要求決議を上げよう。
- ⑥ 11月祭を中心にクラス活動を前進させよう。
- ⑦ 自主ゼミ運動を進めよう。
- ⑧ 11.17全国統一行動に、クラスから一致点での行動で合流しよう。
- ⑨ 全てのクラスで自治委員を選出しよう。

